

# バスクリンのエコレポート

(2013年度の活動結果)



株式会社バスクリン

第5号

発行：2014年5月16日

## 目 次

1.会社概要	.....	P-2
2.対象範囲	.....	P-2
3.環境方針	.....	P-4
4.環境目標とその実績		
4.1 環境目標	.....	P-5
4.2 活動実績	.....	P-6
5.2013年度の主要な環境活動計画	.....	P-7
6.環境活動取組結果の評価	.....	P-7
7.2014年1月以降の取組み内容	.....	P-8
8.環境関連法規制への違反、訴訟等の有無	.....	P-9
9.代表者による全体評価と見直し結果	.....	P-10
10.環境経営推進体制		
・環境組織図	.....	P-10
11.社内活動のトピックス	.....	P-11
12.工場での取り組み	.....	P-12

## 1. 会社概要

### (1) 事業所及び代表者氏名

事業所名 : 株式会社バスクリン

代表者氏名 : 代表取締役社長 古賀 和則

### (2) 所在地 : 〒108-0023

東京都港区芝浦 4-3-4 田町きよたビル 4F

### (3) 環境管理責任者氏名 : 総務部長 久保 康一

連絡先 T E L : 03-6327-2910 F A X : 03-3453-8182

### (4) 事業概要 : 医薬部外品(入浴剤、育毛剤等)・化粧品・雑貨の開発・製造・販売

### (5) 事業規模 (2013年12月現在)

項目	単位	本社	静岡工場	つくば 研究所	東日本 営業所 東京支 店	名古屋 支店	大 阪 支店	福 岡 営 業 所	合計
従業員数	人	65	70	33	41	10	18	7	244
敷地面積	m <sup>2</sup>	620	19,175	3,127	150	145	250	113	23,580
床面積	m <sup>2</sup>	620	10,744	2,033	150	145	250	113	14,055

## 2. 対象範囲

①認証・登録の業務: 医薬部外品(入浴剤、育毛剤等)・化粧品・雑貨・医薬品・食品の開発・製造・販売

### ②認証・登録の範囲

本社 : 東京都港区芝浦 4-3-4 田町きよたビル 4F

静岡工場 : 静岡県藤枝市谷稻葉 242-1

つくば研究所 : 茨城県つくば市東新井 29-9  
東日本営業所 : 東京都港区芝浦 4-3-4 田町きよたビル 4F  
東京支店 : 東京都港区芝浦 4-3-4 田町きよたビル 4F  
名古屋支店 : 愛知県名古屋市東区葵 3-22-8  
大阪支店 : 大阪府大阪市淀川区宮原 2-14-10  
福岡営業所 : 福岡県福岡市中央区天神 4-2-20

③活動レポートの対象期間及び発行日

2013年1月から2013年12月

※事業年度変更に伴い、活動レポートの対象期間を変更



### 3. 環境方針

## 環境方針

### <基本理念>

株式会社バスクリンは、自然との共生を原点とする企業として、地球環境・地域環境に配慮し、健やかで心地よい生活を提供するため、下記の行動指針に基づき全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組みます。

### <行動指針>

1. 当社の事業活動において、開発・生産、販売・物流、使用、廃棄の各段階における環境負荷の低減に資する活動を積極的に進めるため、次の項目を重点管理として取り組みます。

- 1) 環境配慮型製品の開発設計
- 2) 環境配慮型製品の販売促進
- 3) 電気・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
- 4) 廃棄物の3R（減量、再使用、再利用）の推進
- 5) 節水の推進
- 6) 化学物質の削減
- 7) グリーン購入の推進

これらの項目について環境目標・活動計画を定め、環境経営システムを確立し、継続的な改善と汚染の防止に努めます。

2. 環境関連法規、規制及び当社が同意するその他要求事項を遵守します。

3. 環境への取組みについて、環境活動レポートを作成し公表します。

制定日：2010年2月15日

改訂日：2011年4月 1日

東京都港区芝浦4-3-4 田町きよたビル4F

**株式会社バスクリン**

代表取締役社長 古賀 和則

## 4. 環境目標とその実績

### 4.1 環境目標（2014年度～2016年度）当初目標

	項目 (部門)	単位	基準年度 (2012年度)	2014年度	2015年度	2016年度
1	二酸化炭素排出量削減（全社）	kg-CO2	1,157,502	1,147,000 (対:2012年▲1%)	1,141,000 (対:2012年▲1.5%)	1,135,000 (対:2012年▲2%)
	消費電力の削減*	kwh	2,031,434	2,014,000 (対:2012年▲1%)	2,004,000 (対:2012年▲1.5%)	1,994,000 (対:2012年▲2%)
	ガソリン使用量の削減	L	119,695	118,500 (対:2012年▲1%)	118,000 (対:2012年▲1.5%)	117,000 (対:2012年▲2%)
2	産業廃棄物排出量の削減 (静岡工場+つくば研究所)	t	1,186	1,056 (対:2012年▲11%)	1,044 (対:2012年▲12%)	1,032 (対:2012年▲13%)
3	排水量の削減 (静岡工場+つくば研究所)	m <sup>3</sup>	4,711	4,570 (対:2012年▲3%)	4,523 (対:2012年▲4%)	4,475 (対:2012年▲5%)
4	環境配慮型製品の開発設計 (つくば研究所)	—	—	化管法対象物質減量処方の検討	包材重量減量化検討	バイオマスプロへの代替検討
5	環境人材の育成（全社）	工コ検定合格者数	44名	10名	5名	5名

\* 購入電力の二酸化炭素排出係数は、東京電力の0.433kg-CO2/kWh（2011年）を採用。

#### 4.2 活動実績（2013年度1月～12月）

	項目 (部門)	単位	2013年度 1月～12月 計画値	2013年度 1月～12月 実績値	評価	達成状況をコメント
1	二酸化炭素排出量削減（全社）	kg-C O <sub>2</sub>	1,153,000	1,203,230* (1,401,685)*	×	下記の要因により計画値に對して4.4%オーバーとなつた。最新の二酸化炭素排出係数で算出した値は、係数の増加が17.2ポイントあり、21.6%増となつた。
	消費電力の削減*	kwh	2,024,000	2,157,121	×	静岡工場での生産量の増加により、合計で計画値に對して6.5%オーバーした。
	ガソリン使用量の削減	L	119,000	115,950	○	テレマティクスの全営業車への導入およびハイブリットカーの一部導入の結果、ガソリン使用量が計画値に對して▲2.5%となつた。
2	産業廃棄物排出量の削減 (静岡工場+つくば研究所)	t	1,081	1,129	×	新製品やテスト等の直接生産以外の廃棄物の影響、並びに生産量の増加伴い、製剤ロスも増加し計画値を4.4%オーバーした。
3	排水量の削減 (静岡工場+つくば研究所)	m <sup>3</sup>	4,643	4,732	×	工場において、ラインの三交替等、フル生産体制のため部品洗浄時の水使用の増加により計画値を1.9%オーバーした。
4	環境配慮型製品の開発設計 (つくば研究所)	—	—	—	○	詰替え容器を使用した「きき湯」、化管法対象物質未使用のライト育毛剤を上市した。
5	販売促進物の廃棄量低減 (本社)	千円	681	0	○	販売促進物数量の適正化と使用促進活動を積極的に実施した結果0となつた。

\* 購入電力の二酸化炭素排出係数は、東京電力の 0.433kg-CO<sub>2</sub>/kWh(2011 年)を採用。括弧内に最新の係数 東京電力の 0.525kg-CO<sub>2</sub>/kWh(2012 年)での計算値を示した。

## 5. 2013 年度の主要な環境活動計画（具体的取組内容）

	環境目標 (部門)	活動計画 －具体施策－
1	消費電力の削減 (全社)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中、不要時の消灯、電源 OFF</li> <li>・空調設定温度管理（冷房：28℃ 暖房：20℃）</li> <li>・週 3 回ノーカー残業デーの徹底</li> <li>・非使用時の会議室空調停止</li> </ul>
2	産業廃棄物 排出量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香料切替え時の洗浄廃液の抑制</li> <li>・分別による有価物への転換</li> <li>・フレコン袋のリユース再使用の推進</li> <li>・工場での適切な分別処理実施</li> <li>・試作規模を毎回精査</li> </ul>
3	排水量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月一回の漏水点検の徹底</li> <li>・部品洗浄時の水使用削減</li> <li>・節水便器の導入</li> <li>・節水の呼び掛け</li> <li>・入浴剤評価実験の効率化検討</li> <li>・装置・機器洗浄における水使用量の削減</li> </ul>
4	販売促進物の 廃棄量低減 (本社)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・販促物作成数量の適正化</li> <li>・適宜使用の促進</li> </ul>

## 6. 環境活動の前年度結果との比較評価（2013 年 1 月～12 月の活動結果）

	項目 (部門)	(前年度同期比) 達成：○未達成：×	取り組み結果の評価コメント
1	消費電力の削減 (全社)	×	日中、不要時の消灯、空調設定温度管理（冷房：28℃ 暖房：20℃）、週 3 回ノーカー残業デーの徹底、非使用時の会議室空調停止等は昨年に続き実施したが、静岡工場での生産量の増加により、昨年実績と比較して 6% 増となった。

2	産業廃棄物 排出量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	○	製品返品の廃棄物が減少した為、昨年実績と比較して 5%の減となった。
3	排水量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	×	工場において、ラインの三交替等、フル生産体制のため部品洗浄時の水使用が増加した為、昨年実績と比較して 0.4%増となった。
4	販売促進物の廃棄量低減 (本社)	○	各担当部署・営業部門が適宜に販売促進物を使用し、廃棄物を低減するように努力した。

## 7. 2014 年 1 月以降の取組み内容

	環境目標 (部門)	2014 年度の環境活動の取組み内容
1	消費電力の削減 (全社)	<p>特に夏場の消費電力削減の取り組み強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空調設定温度管理 (冷房:28°C 暖房:20°C)</li> <li>・非使用時の会議室の空調停止</li> <li>・週 3 日のノー残業デーの継続</li> <li>・日中の窓側蛍光灯の消灯</li> <li>・蛍光灯の間引き (105 本 約 30%)</li> <li>・構内外灯の点灯時間短縮及び点灯本数の半減</li> </ul>
2	産業廃棄物 排出量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分別による有価物への転換</li> <li>・リユースの推進</li> <li>・製造ロスの発生を少なくするための効率的な生産体制を強化</li> <li>・試作規模を毎回精査</li> </ul>
3	排水量の削減 (静岡工場+つくば 研究所)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な多面的節水行動</li> <li>・月一回の漏水点検</li> <li>・入浴剤評価実験の効率化検討</li> <li>・装置、機器洗浄における水使用量の削減</li> </ul>
4	販売促進物の廃棄 量低減 (本社)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末に在庫を残さないよう、営業部門への情報提供</li> </ul>
5	環境配慮型製品の 販売促進 (本社)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に配慮した詰め替え商品の販売促進を推進</li> <li>・使用促進</li> <li>・商談においての啓発</li> </ul>

6	グリーン購入の推進 (全社)	・環境対応マークの付いた文房具の購入を推進
7	化学物質の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	・化管法対象物質、主要化学物質の月次購入管理 ・有害廃液の適正な回収 ・有害試薬の削減 ・製剤ロスの削減
8	環境配慮型製品の 開発設計 (つくば研究所)	・詰替え容器の設計評価、導入検討 ・化管法対象物質減量処方の検討 ・包材重量減量化の検討



## 8. 環境関連法規制への違反、訴訟等の有無

	該当する環境関連法規制	本社	静岡	つくば	確認 は○	遵守 評価
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法） ・収集運搬・処分先との委託契約の締結及び許可証 ・マニフェスト伝票の発行及び返却期限管理 ・産業廃棄物交付票の状況報告（事業所ごと）	●	●	●	○	違反 無し
2	毒物及び劇物取締法 ・毒劇物法定表示と毒物保管量管理		●	●	○	違反 無し
3	消防法 ・危険物の保管管理（届出指定数量以下）		●	●	○	違反 無し
4	容器包装リサイクル法 ・特定事業者としての帳簿の備えと5年間保管 ・主務大臣への定期報告 ・リサイクル費用の支払い	●			○	違反 無し

※●は対象地区

※当社に関わる環境関連法規等の遵守確認の結果、違反はありませんでした。

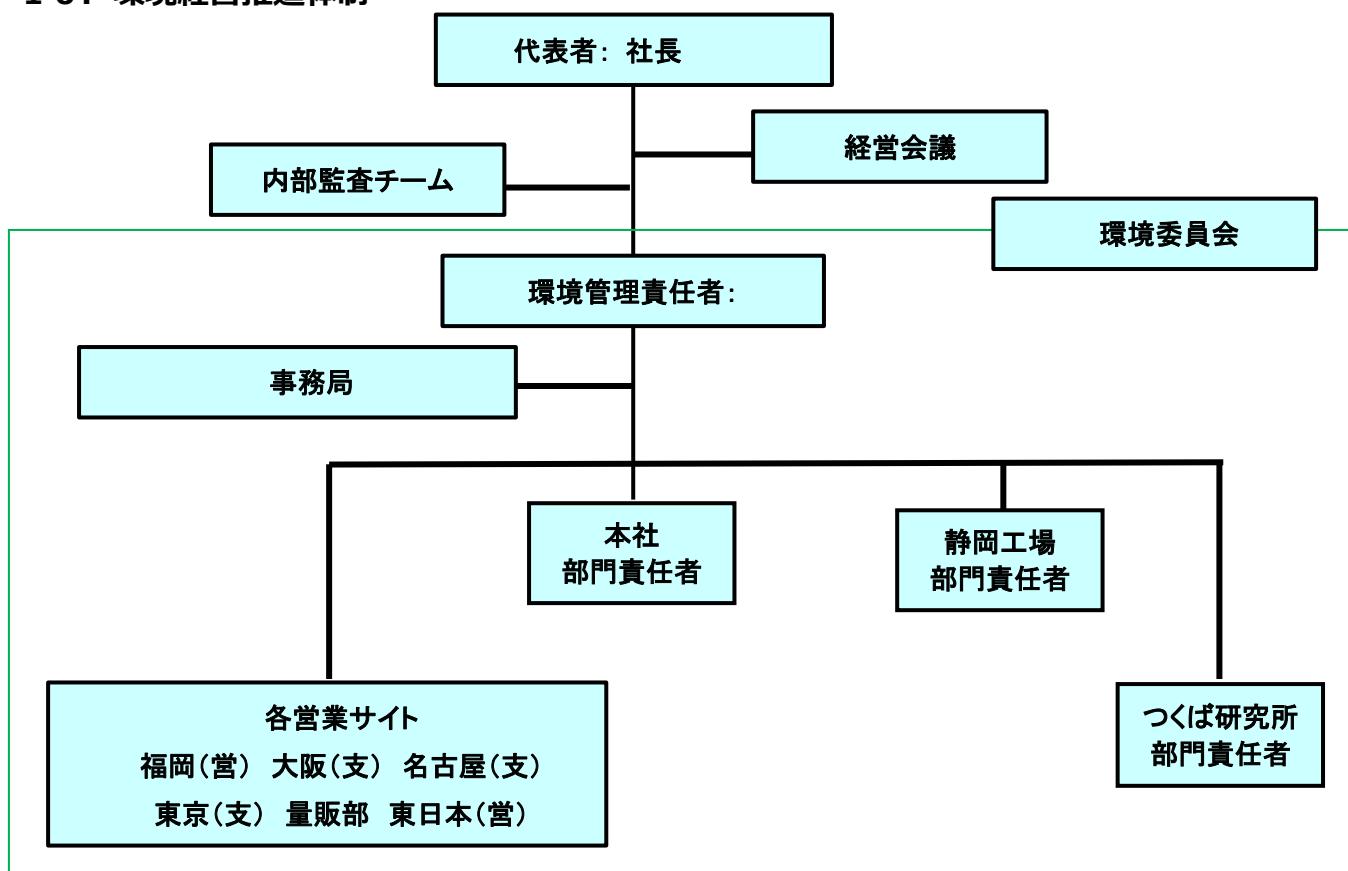
また、過去3年間にわたり関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

## 9. 代表者による全体評価と見直し結果

代表者による全体評価と見直しを 2014 年 3 月 25 日に実施し、下表の結果となりました。

	項目	見直しの有無	評価コメント
1	環境方針の見直し	無	現時点での方針の見直しは不要とする。
2	環境目標	無	現時点で活動目標は追加しない。
3	環境活動計画	無	活動目標については中期計画と実績を踏まえて検討する。
4	環境経営システム的な指示	無	現時点での活動に問題は無いと判断する。
5	全体評価コメント		環境方針の主旨を理解し、適切な目標の設定と対策の実施が図られている。 年間を通じて、全社的活動を継続する。

## 10. 環境経営推進体制



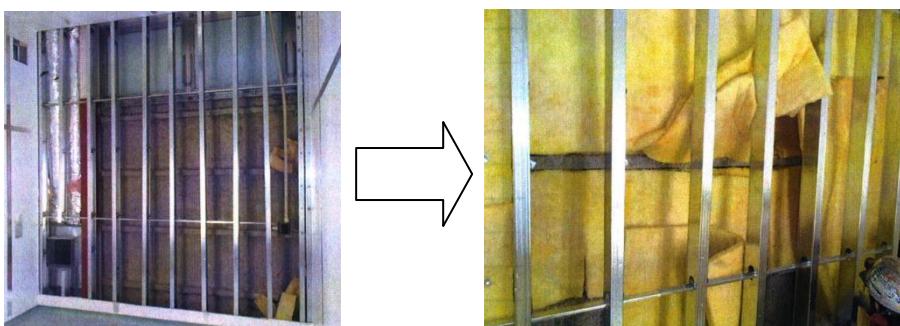
## 1.1. 社内活動のトピックス

### テレマティクスの全営業車導入



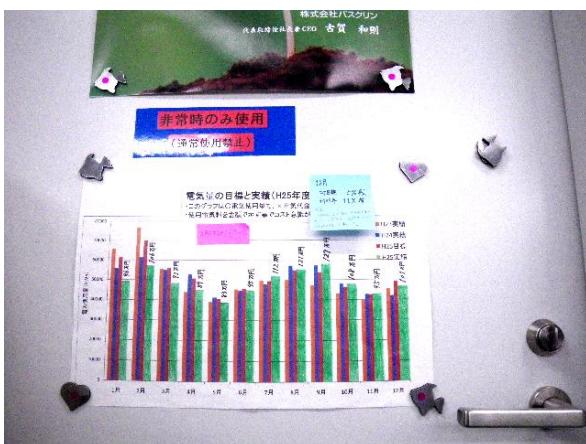
テレマティクスとは、営業車両に車載機を装着し、通信回線を通じて取得した様々な車両運行データを、インターネット上で運行管理に有効な情報として提供するサービスです。運行状況が「見える化」されるため安全運転の指導が可能となります。また運転者がエコドライブを心がけるようになるため、ガソリン使用量が削減されます。

### クリーン実験室の外壁断熱工事（つくば研究所）



24時間空調であるクリーン実験室の外壁の断熱を強化した事で電気使用量が削減できました。

### 電気使用量の見える化（つくば研究所）



毎月の電気量の目標・実績・過去実績をグラフ表示し、職場に掲示しました。

電気料金も表示しコスト意識も持てる様に工夫しました。

## 12. 工場での取り組み

静岡工場ではCSR活動の一環として工場見学を積極的に行ってています。



工場ラインの説明



入浴剤手作り体験風景

	見学件数	見学者数
2013年実績	71件	1,098名
累計（2011年4月～）	218件	3,269名

また地域貢献活動の一環として地元中学生の職場体験を受け入れています。



社員と同じように無塵衣に着替え、作業室に入ります。ここでは製品の向きを揃え、所定の数を確認し箱に詰める作業を行っています。

■環境活動レポートに関するお問い合わせ先

株式会社バスクリン 総務部CSR推進グループ

〒108-0023 東京都港区芝浦 4-3-4 田町きよたビル 4F

TEL:03-6311-6670 FAX:03-3453-8182

次回環境活動レポート発行予定：2015年4月 第6号